

米国の個人消費の堅調さを確認へ～米小売売上高

2018年8月13日(月)

今週は、日本がお盆休み、海外勢もサマーバケーションシーズンということで取引参加者の少ない週となります。

注目材料は15日に発表される米小売売上高(7月)。
米国のGDPの約7割を示す個人消費の動向を直接表す同指標。
前回(6月分)は前月比+0.5%と堅調な数字となり、事前予想とも一致しました。

前々回の5月分について前月比+0.8%から+1.3%に上方修正された上に予想通りの好結果(比較対象が上昇したうえで、さらに堅調な数字)だけに米国の個人消費の力強さを印象付ける格好となりました。

自動車が+0.9%と全体を引っ張っていたところがあるため、今回の予想は+0.1%と少し落ち着いた数字になっています。
前回の反動もあって、7月の米自動車販売が弱めで新車販売台数をみると年率で1677万台と、6月の1724万台から減少しており小売売上高の自動車部門(自動車及び同部品なので一致しない部分もあります)も前月比マイナスが見込まれるためです。
もっとも、自動車の売り上げをみると価格の比較的高いジープの売り上げが好調でFCA(フィアットクライスラー)が前年同月比で+6.0%を記録するなど高価格帯の販売が好調になっており、米国の個人消費の力強さは健在という印象に。

月ごとの変動が激しい自動車を除いた数字は前月比+0.4%と、6月と同水準が見込まれており予想通りの数字が出てくると、米景気は依然好調という印象を与えそうです。

こうした数字は、直近目立つドル買い新興国通貨売りの流れを支えユーロドルなどでもドル高を誘いそう。

ドル円に関してはリスク警戒での円買いもあり、一気のドル買いは難しそうですが、ドル円の下値を支える材料になる可能性も。

その他の国では同じく15日の英物価統計(7月)に注目。

今月の会合で利上げに踏み切った英国。年内が据え置きが見込まれていますが、来年の夏ごろ、ちょうど一年後ぐらいには再び利上げもという期待が市場で見られます。

そのカギを握る物価動向、特にインフレーターゲットの対象である消費者物価指数の前年比の水準には要注意です。

今のところの予想は+2.5%と前回の+2.4%から0.1%の上昇。
ただ前回の6月分は+2.6%と5月分の+2.4%から上昇するとの見込みが5月と同じ+2.4%にとどまった経緯があります。
今回、予想通りの伸びがみられるとボンドの買いにつながる可能性も。

もう一つ上げますと、14日の独ZEW景況感指数(8月)。

前回、2012年来の低水準である-24.7を記録。
米欧の通商摩擦を受けて、独企業の景況感悪化が懸念されました。

今回は-19.6が見込まれており、前回から少し改善も水準的にはまだ厳しいところ。
予想を超えて、前回以上の悪化を見せると、ユーロ売りに拍車がかかる可能性もありそうです。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ